ジョン・ガワー作

「恋人の告白」（その二）

大槻博訳

第一巻

傲慢

[1]私は天にまで手をのばすことはできませんし，絶えず変化するこの世界を調和のとれた社会にすることもできません。そのような大きな問題を包括する能力は私にはありません。[8]ですから私はそれを試みることをやめ，それ以外のことをしなければなりません。今日からは書く内容を変え，ごくありふれたことがら，すべての人々に関係のあるもの，世の人々が頼りどころとし，この世が始まって以来頼りどころとされてきたもの，人類の生存する限り存在するものについて述べようと思います。それは愛です。私は愛を扱おうと思います。[17]愛については，誰も自分の行動を抑えることはできません。といいますのは，愛の規則は定められていないからです。自己を抑制しすぎても，又抑制がたらなくても，そのような人はたいてい非難されます。愛が生れた時，その愛を抑えておくことができるほど賢明な人はこの世にはいません。理性の力でも，愛を抑えることができないからです。抑えることができると誇れる人は愛に打ちのめされ，誰からも助けられることはありません。

[29]神が自然の法則として定められたものを変える方法はありません。そして，愛の苦しみを癒すものを見い出せる人はいません。[31]愛はそれがいる所ではどこでも主人の地位にいましたし，現在もそうですし，将来もそうでしょう。このことに反対の意見を唱える人はいません。愛が住みつこうとしている所では，その邪魔をできる人はいません。

[39]愛には偶然の結果が生じますので，愛の結果を予測できるような賢明な人はいません。もし運命が自由に手にすることのできる天秤があるなら，理性に耳をかすことのない愛がその天秤を思いのままにしていると私は聞いたことがありますし，そして，それを信じています。[47]愛は盲目で，見ることはできませんので，その判断は正確ではありません。運命の車輪がまわる時，愛はその恩籠を受けるにふさわしくない者にまで与え，また，自分に仕える者から，まるでさいころ遊びをしているかのように，その報酬を受け取ります。愛は終るまで，何が起るかわかりません。愛は自分は何を得るのか，失うのかを知りません。[58]よくあることですが，愛の結果がわかってしまうと心変りをする人がいます。

61 このことが真実であることを証明する者として，私自身がそれを学んだ者の一人であります。もしあなた方が聞こうとするなら，語りましょう。それ程以前のことではありませんが，私に不思議なことが起りました。それは，愛とその結果のことでありますが，しかしそれは私にとって苛酷で，苦痛に満ちたことでした。私はこのことについて知ってもらいたく，はっきりと申しましょう。72 私は愛について詳しく語り，愛の忌わしい苦痛，悲しみの日々，悲しい運命について書きましょう。そうすれば，この本を読む人々は覚えておくことができるでしょう。私は心から忠告しますが，人々は与えられた先人の知恵を例として学び，知る価値のあるものを得るべきです。そのような行為は賞讃に値すべきことです。83 ですから私は，愛と私の経験したことについて卒直に述べようと思います。そうすれば世間の人々は，私が死んだ時，幸福と不幸をもたらす愛の苦しみについて，私を例にすることができます。愛は時には喜びとなり，時には悲しみとなるような気まぐれな性質をもっていますが，いかに多くの知識を積んでも，それには逆うことのできないものです。

93 愛について私の経験したことを述べましょう。私の運命に起ったことを知りたいと思う人は聞きなさい。先日私が歩いておりましたが，それは五月のことで，全ての鳥がその友を選び，友を得た愛の喜びを歌っておりました。しかし私は心の重荷を取り除くことはできませんでした。といいますのは，地が天から離れている以上に，私は愛からかけ離れており，愛を得る望みはありませんでした。私はどうすればよいのかわかりませんでしたが，旅に疲れた者のようになり森の中へ入って行きました。しかしそれは鳥と喜びを共にするためではありませんでした。森の中を行きますと，香わしい緑の草地がありました。そこで私はただ一人嘆きながら，自分の不幸を悲しんでおりました。私には喜びがありませんでした。117 私は苦痛に襲われ，息ができなくなり倒れました。私は苦しみのあまり目をさました時，死を望んでおりました。そして惨めな気持で何度も天を見上げ，語りました。

「ああ，キューピッド。ああ，ビーナス。あなたがたは愛の神と女神でおられます。どこに哀れみの気持をお持ちなのでしょうか。どこに優しさをお持ちなのでしょうか。私を生かすか殺すかを決めて下さい。私が今まで長くかかってきて，現在もかかっているこの病いに，まだもっと耐えなければならないなら，賢者でさえ狂うかもしれません。ああ，ビーナス。あなたは愛の病いを癒す女神であり，あなたは生命であり，喜びであり，私達の救いでおられます。あなたが慈悲深い神であるかどうか私がここで知ることができるために，私の病いの原因，私の苦しみを知り，私に慈悲をたれて下さい。」

138 私はこのように語りながら，愛の神と女神を見ました。しかし神は怒った目付きをして，私から顔をそらし，去って行かれました。143 しかし神は去る前に火の矢を手にすると，私の心臓にそれを投げつけられたように私には思えました。神は私に助けとなるようには思えませんでした。といいますのは，神は長くそこに居ようとなさらなかったからです。148 しかし，恋をする者の幸福と不幸の源であり，泉である愛の女神はその時までとどまっておら

れましたが，私に好意ある表情をなさいませんでした。しかし私に，「あなたは誰ですか。」と尋ねられました。[154]私は眠りからさめた者のように驚きました。女神はそれに気づかれると，恐れないようにと私に命じられました。しかし私はそのことばを聞いても，嬉しくはありませんでした。といいますのは，嬉しく思う理由もなかったからです。[160]女神は再び私に，何者かと尋ねられましたので，私は申しました。「ここにいる者は惨めな男です。何をなさるおつもりですか。私は癒されるのでしょうか。」[164]女神は語られました。「[164]あなたの病を言ってごらんなさい。あなたの煩っている病は何ですか。隠さないで語りなさい。もし偽りますと，私はあなたを癒すことができません。」[168]「はい，私はあなたの宮廷で長くあなたに仕えてきました。私は長い苦しみの後の幸福という，私が当然受けるべきものを求めております。」[172]すると彼女はまゆをしかめ，語られました。「あなたのように偽りを語る人は多くいます。あなたはまさにそのような人であるかもしれません。あなたは私に仕えてきたと嘘を言っています。」[177]彼女は私の運命は偽りのない車輪の上に立っているのを知っておられましたが，私に真実を述べ，私の病について語るように命じられました。[182]私は語りました。「[182]もしあなたが哀しみの心をお持ちなら，私は申しましょう。」[184]女神は語られました。「私にその事情を語りなさい。あなたの病をすっかり話しなさい。」「[186]もし私の生命が続くなら，申します。」[188]彼女は私のことばを聞くと，私の方に顔を向け語られました。「もしあなたが生きているなら，あなたが告白することを望みます。私は自分自身あなたの病をすっかり知っていますが，すぐここにやってくる私に仕える司祭に対して，あなたの思っていることと行動を詳しく述べなさい。ああ，ジーニアス。私に仕える聖職にある者よ。こちらへ来ない。この者の告白を聞きなさい。」[198]ビーナスはこのように語られました。私はこのことばを聞き，頭を上げますと，女神が望まれたように，私の告白を聞こうと座っている司祭が目に入りました。

[203]この立派な司祭，この聖なる人は私に語り始めました。「祝福されよ，子よ。愛がもたらす幸福と不幸について告白しなさい。[209]愛のために今まで思ってきたことをすっかり話しなさい。今まであったことをありのまま語りなさい。」[212]私はこのことばを聞くと，敬虔な気持になり，跪き，悔恨を感じながら話しました。「私のお仕えする方，聖なる司祭，ジニアス様，あなたは愛についていろいろ御存知です。愛のために私の告白を今日お聞き下さい。私が告白する際に，私が言い損じないように御配慮下さい。といいますのは，私は心が乱れ，動揺しておりますので分別がなくなり，多くのことを忘れるからです。しかしもし私の告白したことについていろいろと尋ねられるなら，何も言い忘れることはないと思います。[228]今私の心は乱れており，私自身を語ることはできないほどです。」[230]するとすぐに司祭は私を諭され，優しいことばで，静かに，穏かに語られました。「[233]子よ，私に司祭の役目を命じられ，また天上の女神でもあるビーナスより，愛についてあなたに尋ね，告白を聞くようにと私は命じられております。しかし私は愛だけでなく，悪の原因となって

いることについても語るよう命じられていますし，私自身当然語らねばならないと思ってます。[242]これは司祭の果たすべき務めであり，私はその務めを果たすつもりです。私が悪徳を一つづつあなたに述べないでおくとすれば，それは許されないことです。それを語ればあなたは良心によって抑えねばならない悪についての例を知ることができます。[249]しかし結局最後には，私は特に愛ついて語ろうと思います。といいますのは，私は愛に仕えておりますし，そのために私はここへ来たのです。[253]私は次の二つのことをしようと思います。まず最初に，私の役目なのですが，悪について一つづつ述べ，その次に，特に愛の性質について示し，そして，私は自分の仕えているビーナスの意志に従わねばなりませんが，そのビーナスの意志により，愛がそのもっている性質のために，どのような結果に終るかを述べようと思います。[262]私は愛に身を奉げておりますので，知識となることは少ししか知らなくても非難はされません。私は知識となるようなことは学んでいません。また，美徳や悪徳についてではなく，愛とその教えについて語ることが私の習慣です。といいますのは，ビーナスの持っている本には愛以外のことについては文章も，批評もみあたりません。[272]聖職者は立派な態度をとるべきであり，また，知らないことがあれば，恥じるべきであると私は思っています。私は以前にいた聖職者の例にならって，あなたの告白の導きをしましょう。そうすれば，あなたは悪について学ぶことができるでしょう。私は悪とあなたの愛の問題とを結びつけ，愛について理解してもらいたいのです。[281]告白の際に尋ね，語ることばは簡潔であらねばなりません。そのことばは美しくする必要はありません。といいますのは，真実を語る時，そのことばは美しく，飾る必要がないからです。私があなたに尋ねることは明白であるので，あなたは自分の告白するべきことがよくわかるでしょう。」

[289]私は生と死の間をさまよっていましたが，この司祭のことばを耳にして，答えました。私は司祭に，思っていることを述べるつもりであると語り，そして，私は彼の教えに従おうと思いました。司祭は私に五感について告白し，五感を誤って使っていれば，それを直すように命じました。[(1)]

聴罪司祭

[299]感覚についていえば，五感は実際に門であり，魂に害となるかもしれないものが，その門を通る時選抜かれます。[303]子よ，このようなことを語っていますと，私はまず第一に，視覚について述べてみようと思います。視覚は危険が生じる原因の最も主なものと考えられます。

[309]愛について言いますと，他の人の邪魔をしようと心に邪推の念がある人は当然ですが，自分には関係のないものまで見ようとして，あたりに目を配っている人が多くいます。ですから，多くの立派な騎士や多くの美しい女性がたびたび気分を害しています。[319]目は愛についていえば泥棒のようなもので，多くの災いの原因となります。また，永久に燃え続ける

火のついた愛の矢は目を通して心に届きます。このように，目は深い悲しみの原因となる第一のものかもしれません。何度も目は不幸の原因となっています。子よ，私の物語を聞き，あなたの目がその範囲を越えて見ることのないよう注意しなさい。

アクテオンの物語

333 オヴィドは彼の本で，見るという罪について例を挙げ，次のように語っております。昔アクテオンという名の立派な王がいました。彼は初めてテーベをすばらしい町にしたカドムス王と血縁関係にありました。アクテオンは，当然のことですが，他の者より優れた者でした。毎年彼は犬を連れ，大きな角らっぱを持ち，森や茂みの中を狩や猟に出かけていました。彼はその途中に獲物を見つけるのに最も良いと思う場所へ行き，狩をし，楽しみました。349 ある日狩に出かけた時，森の中でたまたま一人になりました。彼は草地に美しく，色鮮やかな花の咲いているのを見，木々の間でつぐみやさよなきどりが囀る声を聞きました。彼は知らず知らずのうちに谷間へ来ました。そこには小さな平地があり，それは緑の茂みと高い杉の木で囲まれていました。彼はその中に目をやりました。その平地には言いようもない美しい泉がありました。ダイアナが衣を脱ぎ，彼女に仕える多くの妖精達と水の中で遊び，戯れておりました。アクテオンは衣をまとっていないダイアナから目をそらせませんでした。彼女はひどく怒り，女神でありましたので，彼の姿を変え，雄鹿にしました。その雄鹿は自分の連れていた猟犬の前に飛び出すと，角笛や多くの人々の叫び声に追われ，走りまわりました。そして結局不幸にも，猟犬がその雄鹿を襲い，ひどいことに，その身を引き裂いてしまいました。

379 さて，子よ，見るという誤りを犯すとどのようになるかがわかったことでしょう。そのためにアクテオンが高価な代償を払うことになったのです。気をつけて，見るという誤りを犯さないようにしなさい。383 このことに気をつけている人は，見ないで，目を閉じている方が良いと思っています。385 今述べたことを証明するために，詩人オヴィドがもう一つ物語りを語っております。それを話ししましょう。

メドーサの物語

389 オビッドの『変身物語』に，次のような物語りがあります。フォルセウス王に三人の娘がいました。その三人の娘が生れた時，彼らは人間の姿からかけはなれ，蛇の姿をして生れるという星運のもとにいました。その一人はステリボンで，二番目はスキドナで，三番目の娘はメドーサという名前でした。彼ら三姉妹はその周辺の国々ではゴルゴンと広く呼ばれ，人々から恐れられていた怪物でした。彼ら三姉妹には一つの目しかありませんでした。その一つの目で彼らは見ることができたのです。ある時にはそのうちの一人がその目を持ち，またある時には他の者がその目を持ちました。それぞれの者がその一つの目を必要とした時には，くじで誰かがその目を持つことになりました。411 しかしもっと不思議なことがありました。そのことを私は申しましょう。その三姉妹に目をやり，見る人は誰でも，

その三姉妹によってすぐに人から石へと変えられました。このようにして多くの人々がわなに掛けられました。といいますのは，見ないでおくべきであったのに，見るという罪を犯したからです。[419]しかし，立派な騎士であるペルセウスはパラスから，彼女の大きな力により循を授けられ，またマーキュリーの神から剣を授けられると，アトラスの山を越えて三姉妹の怪物を探しに出かけました。そして彼は，その国の多くの人々が三姉妹を見て姿を変えられて，あちらこちらに石のように立っているのを見ました。[429]彼はマーキュリーとパラスから授けられた知恵と力により，そしてパラスの循を手にし，それで顔を覆い，マーキュリーから授った剣を抜き，行動を起しました。そして三姉妹の恐ろしい怪物を殺しました。

[430]さて，子よ，注意して，目を誤って使わないようにしなさい。石に変えられないように，目をメドーサーに向けないようにしなさい。もし目を使うという行為に気を配ることなく，見るという愚かな喜びに身を委ねるなら，賢者といえども快楽にとらわれ，愛の力により負かされます。[445]見るべきでないものを見ると，どのようになるかをあなたに話しました。子よ，よく気をつけなさい。それから，私は聞くということに気をつけるように忠告します。聞くことは心を悩ませる多くのつまらないことを心にもたらします。[453]しかし，美徳について聞くことは良いことです。それ以外のことは耳をそらしておいた方が良いのです。耳をそらさなければ，悪いことが起るかもしれません。[460]耳にすることにより，恐怖におちいった人々の例を読んだことがあります。

蛇の分別

[463]アスピディスという蛇には特徴がありました。それは，ざくろ石と私達が呼んでいる最もすばらしい石をその頭に高々と持っていたということです。[468]そのためにある男がその蛇を手なづけ，その宝石を手にしようとして，呪文で蛇を魔法にかけようとした時，蛇はそれに気がつくと，片方の耳を地面にしっかりとつけ，他方の耳もまた尻尾でしっかりと閉じましたので，少しもその男の呪文を聞くことはなかったのです。このようにして蛇はことばをそらし，耳にすることによって騙されることなく，自らを守りました。

サイレンの物語

[481]もし思い出すなら，今述べた譬え話に似た物語を一つ，トロイの物語に見つけることができます。[484]物語にありますように，不思議な姿をしたサイレン達は怪物であり，広い海[(2)]に住んでいました。彼らの海から出ている体と顔は若い女性に似ており，その下は，見ることはできましたが，魚の姿をしていました。[492]彼らは女性の声で，天使の歌のように甘く，たいへん楽しい，調子のよい歌を上手に歌いましたが，彼らのいる海辺の側を通り過ぎる舟を欺くのがその本性でした。[499]船員はその声を耳にした時，彼らにはそこが楽園であるかように思えました。しかしそれはその後彼らには地獄となるのです。船員達はその楽しい歌を聞いた時，理性が彼らの内に住むことはなくなり，船の舵を正しくとることができなくなり

ました。それほどまでその調べに耳を傾けました。そして愚かにも船の正しい進路を忘れ，耳に従って船を進め，遂に船員達は危険に陥ることになったのです。船は粉々に砕かれ，彼らは怪物に殺されました。[515]しかしユリシーズ王はこの危機から知恵により脱出し，それを乗り越えました。彼は予め乗組員の誰もが，その人を騙すものに対して耳を傾けないようにさせようと思いました。彼は乗組員がサイレンの歌声を聞くことができないようにすばやく耳を塞がせました。[524]彼らは船を進めた時に，このように自己の欲望を抑えていましたので，怪物に抵抗し，その大部分を殺せたのです。このようにしてこの賢明な王は自己を抑え，他の乗組員と共に安全でいることができました。

[530]子よ，私の語った譬え話を覚えておきなさい。耳にするものには気をつけ，はっきりとした証拠がないなら聞いたことを信じてはいけません。[535]といいますのは，あなたに話したように，目にするもの，耳にするものに対して気を配り，目と耳を賢明に使うなら，あなたの内にある理性を打ち負かし，あなたに愛という感情を抱かせ，結局多くの苦悩をもたらす愚かなことに対し門を閉ざすことができるからです。[543]もしあなたが五感のうちの二つを支配できるなら，他の三つの感覚をも容易に支配することができます。五感については，今はその二つ以外の感覚は問わないでおきます。あなたは目を向けるべきでないものに目を向けたことがあるかどうかを語りなさい。

ガウワー

[550]はい，司祭さま，私は告白いたしますが，私はメドーサに目をやったことがあります。そのことについては私は言い訳はいたしません。私の心は石に変りました。そして，私の思いを寄せている人は，私が自分を救えないほど，私の心に愛の刻印を刻み込んでいます。

聴罪司祭

[557]子よ，耳についてはどうか。

ガウワー

[558]司祭さま，私は耳についても罪があります。といいますのは，私は思いを寄せている人の声を聞きますと，私の理性はその進路を誤ります。私はユリシーズのようにはできません。私はそれとは逆に，私は思いを寄せる人が見えると，その場で倒れてしまいます。あなたに知って頂きたいのですが，その場で私の心は粉々に引き裂かれ，私自身を守るべき理性はまったくなくなります。

聴罪司祭

[568]善良な者よ，神の助けがありますように。あなたのことばによれば，あなたの理性を探し求めようとすれば，それはあまりにも遠くにありすぎるように私には思えます。私はあな

たの耳や目についてこれ以上のことは申しません。他のことについて尋ねたいと思います。
575 子よ，あなたに話さねばなりませんが，七つの大罪があります。そのような罪を犯しますと，心はその後苦しみます。580 その七つの大罪の第一のものは，あなたもわかるでしょうが，傲慢です。傲慢は大きな罪であり，そしてそれには特に五人のいろいろな召使いが仕えております。あなたに話そうと思いますが，その第一のものは虚偽(3)と呼ばれるものです。子よ，あなたが虚偽の友人であるかどうかを述べ，はっきりと告白しなさい。

ガウワー

588 司祭様，あなたのおっしゃる意味がわかりません。虚偽を行うということがどのようなことなのか，何らかの方法で教えて頂きたく思います。そして，もし私が虚偽を行う者として罪があるなら，ありのままを告白いたします。

聴罪司祭

594 子よ，虚偽を行う者は，その心は外に向ってはまるで善人のようなふりをしますが，内にはそうでない人のことを言います。そのような人は自分の望む立場を得ようと思ってそうするのです。600 そしてこの野望を達成すると，自分の本質をあらわします。小麦はただの草になり，バラの花はとげとなり，羊は狼となり，このようにして悪はみせかけの正義の下に隠されております。人々が語っていますように，聖職者達は虚偽の住み家を知っています。そして彼らは虚偽と相談しているのです。虚偽は聖職者達が一度捨てた世俗のことに彼ら引をき戻します。人々が語っていますように，虚偽はその貧しい粗末な衣装の下に，華美な衣装を身につけ，また，殆ど価値のないものを価値のあるもののように見せかけます。人々の前では虚偽は罪に対して「去れ！」と言いますが，その後の悪徳のいる所では，その乳母となっているのです。虚偽はおもてでは常に威厳のある，優しい表情をして，その行く所では神をよく讃美します。622 虚偽は何も知らない世の人々を欺いています。虚偽は聖職者の間にその支配を広めているだけではなく，そのほかに聖なる教会の内にも，巾の広い毛皮のついた頭巾をかぶった人々の間にも，世俗の富をふやそうとして浸透しています。629 彼らはこの世を最も激しく非難しておりますが，その教えとは反対に，世俗のもののほかに彼らの愛するものはありません。彼らはうわべは明るいようですけれども，その内部では暗いことを行っています。635 このように二つの顔を持つ虚偽は，その表面は信心深くして，顔に仮面をかぶっています。その仮面のために世間の人々には，彼らは立派な特質を備えているようにみえますが，その心には悪意があります。641 さらに，この虚偽は人々には信頼されておりますが，名誉と世俗の富を手にするという自分の目的をたびたび果たします。人々が語っていますように，虚偽は秘かに偽りという隠れみのによって名誉と富を手に入れます。646 まったく同じように，この虚偽という悪徳はこの世の高貴な人々にも仕え

もします。虚偽はそれ以外の人々には関心を持っていません。虚偽は普通の市民よりも身分の高い人々と交りあうことを好みます。そして虚偽は人々に手を貸す時には，貪欲にその手を貸します。今日，ペテロやヨハネについて語りながら，その心はユダのような人が多くいます。[658]この世の富はどのようなものでも，虚偽の手から逃れられないのです。虚偽を行う者は施しをし，たびたび断食を行い，ミサにあずかります。彼は「我が過失なり。」と語りながら，胸に手をおき，まるでキリストの顔を見るかのように見上げます。その光景を見ますと彼ただ一人が聖なる祈りをし，他の人々を救っているようにみえます。[668]しかし彼の心はその信心深い祈りの際にも，他の場所，すなわち，世俗のことがら，富をいかにふやすかに向っています。[672]同じように虚偽を行って愛を求める人たちもいます。彼らは上品な態度をとっているように装っていますが，すべての行為はただ単に虚偽であり，偽りと甘言で多くの立派な女性を馳しています。[672]虚偽を行う者はその舌を甘いことばと嘘でみがきかけ，偽った優しい顔をして，女性に美しい緑地へ行くように思わせますが，その時実際はその女性は泥地へおちこむのです。[684]彼は欲望のある時，結果を考えないで，自分のした約束を破ります。虚偽を行う者はことをうまく運ぼうとして，思いを寄せる者をも偽るという狡猾な手を使います。彼は彼自身にふさわしい手を使います。薬を使い，顔を薄雲のかかった月のような色にして，病を装い同情を求めます。[696]彼は本当の顔色を隠し，彼女に一瞥を注ぎながら溜息をつきます。幾度も偽った態度をとり，自分の手に入れたいと願っているものを彼女に認めさせます。このようなことですから，彼の顔色は悪いのです。健康であっても病気のように装い，そして，それを本当らしくみせます。[704]彼は帆を最も低くしていても，女性を欺く速さは最も早いのです。その時彼女は彼を信じております。

[708]子よ，もしあなたがこのような心を抱いているなら，よく考えて告白し，そうであるかどうか語りなさい。

ガウワー

[712]司祭さま，決っしてそうではありません。私はそのように病気のふりをする必要はありません。といいますのは，私は誓って申しますが，私の心は顔に出せても，心はそれ以上に病に冒されています。[717]はっきり語ることができますが，私は謙譲を装って身を低くかがめることはできませんし，心から思わなければ，身を低くかがめても，それは不愉快なことです。私は思いを寄せる女性に偽った表情をすることはありえません。[725]私が嘘を言わないのを神はよく御存知です。私の顔の表情は私の心をあらわしています。心から申しますが，私の望みは私が顔に表わすことができる何千倍以上のものであることを信じて下さい。[730]私が若い頃虚偽を行う者であったなら，あなたの許しを得たいと思います。私は自分があらゆる点で愛やその仲間に対して虚偽を行わず，罪がないとは自分を弁護するために，言いたくはありません。私は今思い寄せる人が一人います。私は彼女から感謝のことばを聞い

たことはありませんし，私は心の命じるままに，「はい」と「いいえ」のようなわずかなことばしか今日まで彼女に語っていません。[742]しかし，私は他の人に接した時には，あなたのおっしゃる虚偽を行ったものでなかったとは言えません。

聴罪司祭

[745]子よ，あらゆる面で愛する人に誠実であるのは当然のことです。このことをわきまえている人は，愛において何が起ころうとも，偽った表情をして愛する人を欺くことは決っしてありません。すべての人は純粋な気持で愛すべきです。しかしたとえ偽り，欺いて喜びを意のままに得たとしても，それは一時的なもののようであり，その後は後悔するでしょう。私のことばを証明するものとして，年代記に愛する人を欺いた例があります。

マンダスとポリナの物語

[761]昔，ティベリウス皇帝がローマの国を支配していた頃，その国に妻の名がポリナという一人の立派な男がいました。彼女はあらゆる男の目からすれば町で一番美しく，人々が語るには，最も善良な女性でした。[769]今までもずっとそうだったのですが，男の理性は強いものではなく，美しい人を見れば，その人を愛するようになります。そして心を盲目にさせ，理性をなくさせるような生れつき弱い本性に従います。私はこのようなことを述べて，物語を始めようと思います。この妻は若さに溢れ，美しく，快活で，陽気で，男を夢中にさせずにはいませんでした。

[782]マンダスという名の公爵がいました。彼はローマの騎兵団を指揮する立派な騎士でした。しかし彼には恋の力に立ち向い，自分を恋の支配下におかせないようにさせる力がありませんでした。彼は自分の力には何ら関係なく彼女を愛してしまいましたので，金の贈物や嘆願によって彼女の許しを得，手に入れることができないものを得ようとしました。[795]贈物によっては彼女の愛が得られないのがわかると，狡猾なわなをしかけました。彼は，町に立派な寺院があり，そこへ高貴な女性達が子を授けるアイシスの像に祈願するため，敬虔な気持でよく参詣するのを思い出しました。その寺院には当時の規則に従って，そこを管理し，治める二人の僧がいました。[811]愛を得たいと望んでいたその公爵は，ある日彼ら二人を食事に招きました。彼らが公爵の命令により来ると，すばらしいもてなしを受けました。秘かな場所でこのように食事をした後，公爵は自分に対する感謝の念を求めて，二人にそれぞれ贈物をしました。その後彼は自分の企みを打ち明け，自分の喜びを得るため，彼ら二人にポリンを騙す手助けをさせようと陰謀に引き込みました。[822]二人の僧は彼女を夜寺院に連れて来る約束をし，彼はそこで彼女を思いどうりにするということになりました。このようなことを決めると，彼らは帰って行きました。

[827]この女性が騙されることになるその狡猾な行為が，いかに虚偽に満ちていたかを聞きなさい。[830]この二人の僧は彼女が信心深いのを知っておりました。彼らは誠実を装ってはいま

したが，その下には偽りに満ちた心が隠されていました。彼らは彼女の許へ来ると，神からの伝言だと偽り，次のように語りました。「ポリナ，アヌブスの神が私達二人の僧をここへ遣わし，そして神はあなたを愛しているがために，夜ただ一人であなたの許に現われると申しておられます。アヌブスの神は私達に命じて，あなたが夜アヌブスの神の姿が見られるような場所をアイシスの寺院の中に提供するように言われております。あなたはその場で，私達が聞きましたように，その神を夢の中にみるでしょう。[846]アヌブスの神は純粋で，たいそう誠実なあなたの性格を尊とばれて，あなたと一つになることを望まれております。それを伝えるためにアヌブスの神は私達二人をここへ遣わされました。」彼女の純真な心はそのことばを聞き，喜びました。彼女は謙遜した態度で答えると，自分は喜んで神の意志に従うつもりであり，夫の許可を得て，神の恩籠を得るためにアイリスの寺院でその夜神に仕えると語りました。[861]僧達は戻りました。彼女は夫の許へ行き，神の意志についてあるがままをすっかり語りました。このようにして夫もまた騙され，彼は妻に神の命令に従うように命じました。[868]彼女は神に対し心から誠実でありましたので，その夜卑劣な僧達のいる寺院へ行きました。僧達はまるで女神を迎えるかのように，おおげさな身振りをして彼女を迎えました。その秘密の場所の内はまわりが幕でおおわれ，彼女が後に騙される場所となる大きな，柔らかい寝台がおかれていました。[879]すべてが名誉なことであると思った彼女は卑劣な僧達に，神を喜こばすためにはどのような儀式で，その夜の務めを果たすのかを尋ねました。彼らは柔らかな寝台に横になり，眠るように命じました。といいますのは，アヌブスの神が静かに，優しく起しに来るだろうからだと語りました。[888]彼らはこのような助言をすると，彼女の許から去って行きました。彼女は策略には気づかないで，言われたまま寝台に横になり，眠ろうとしました。彼女は自分の信じていることが成就することを望んでいました。そしてそれは神の意志によってなされると信じていたのです。[896]しかし彼女の思っていたようにはなりませんでした。といいますのは，公爵が近くの部屋に秘かに隠れており，彼女はそれを知りませんでした。彼女を騙そうと思っていた公爵は，彼女のいる所へ行った時，彼女がアヌブスの神を見たと思うような衣装を身にまとっていました。このように巧妙に虚偽を行う者は，彼女が眠るまで待ちました。[906]彼は密んでいた場所から静かに這出しましたので，彼女には何の物音も聞えませんでした。彼は寝台へこっそり行くと，突然彼女が気がつかないうちに，彼女を腕に抱き，接吻しました。彼女は女性特有の恐怖を感じ，目をさましましたが，どうすればよいのかわかりませんでした。彼は優しい，穏やかなことばで彼女を慰めました。彼は，自分が子供を彼女に授け，そしてその子供は神となり，神々と共に住み，人々は崇拝するであろうと語りました。[922]彼女はこのような偽りのことばを耳にした時，すべてが真実であると思い，分別がなくなりました。不貞な行為を企てていた彼は，偽りのことばで彼女を安心させ，彼女を自分の思いのままにしました。[929]夜明け頃，彼はもう満足であるように思うと，秘かに出て行きました。

彼女には彼がどこへ行ったのかわかりませんでした。彼は満足して寺院から出て行きました。934彼女は何もひかれていない床に跪くと，祈り始めました。献金をした後，僧達に立派な贈物をして，大通りを通って帰途につきました。940公爵は彼女に出会うと，次のように語りました。「ポリナ，アヌブスという力強い神があなたを救いますように，あなたはその神の聖なる教えを守っていますと，昨晩アヌブスの神が行なったこと，それはあなたが夫以外の誰にもさせなかったことですが，そのようなことはどのような男もできないでしょう。946私はアヌブスの恩寵を求めておりましたが，遂にその部下となれました。その神との誓約により今日から私はあなたのものであり，もしあなたが私のものとなりたいなら，それはあなたの気持しだいです。」

952彼女はこのことばを聞くと，じっと耐えて家へ帰り，自分の部屋に入ると，寝台の上に倒れ泣き叫び，語りました。「卑劣な虚偽を行う者，その偽った姿により私はこのように卑劣にも騙されたのです。しかし私はこのことを知ったことについて神々に感謝します。といいますのは，一度は起りましたけれど，命ある限り，二度とこのようなことを起させません。私は神に誓います。」965彼女がこのように語り，泣き，嘆いておりました。その美しい顔を目から流れる悲しみの涙で汚し，苦痛に満ちていました。その時夫が入って来て，彼女が悲嘆にくれているのを見，なぜそのように苦しんでいるのかを尋ねました。973彼女は夫のことばを聞くと，いっそう嘆き悲しみ，次のように語りました。「私は妻としての立場をなくしました。私は貞淑ではありましたが，今では単に獣です。私は妻である身と貞淑を共に失いました。」978彼女は悲しみ，恥じていましたが，話ができるようになると，実際に起ったできごとを語りました。その時顔は青ざめ，殆ど死んだように気を失いました。984夫は彼女を腕にしっかり抱きました。彼には，彼女が寺院にいた時，彼女には為す術がなかったのがわかりましたので，彼女には怒りの気持はないと何度も誓いました。しかし彼の心は悲しみ，彼はどのようなことが起ろうとも，そのような侮辱に対し復讐すると語ると，すべての友人を呼びに使いを出しました。993友人達が集まると，彼は事情を説明，どうすればよいのかを尋ねました。彼らは相談し，まず最初に彼の妻の気持を安らかにし，その後にこの件について王に訴えるのが一番良いように思えると語りました。1001この悲嘆にくれた妻はいろいろな方法によって心を慰められ，勇気づけられましたので，ある程度癒されました。このように一日，二日が過ぎ，三日目に彼女とその夫は多くの立派な市民と共に訴えに出かけました。

1008皇帝は彼女の話を聞き，そのような卑劣な，偽りに満ちた行為を知った時，自分がその裁きをすると語りました。最初に皇帝は僧達を連れて来させ，皇帝は問い正しました。彼らは言い訳ができませんでした。僧達は彼女の訴えのことばを否定できず，許されることを願って，その罪を公爵に帰しました。1018しかしそれに対して人々は僧達を許しませんでした。といいますのは，公爵は一人で，僧は二人であり，二人の方が一人よりも理性があり，そ

れゆえ言い訳は認められなかったからです。1023さらに次のようなことばも語られました。人々が徳を探し求める時，それを聖職者に見い出すのであり，聖職者は道を説くほど立派な人々であり，聖職者達のだれが悪事を行っても，許されることはないということでした。1030このようにして道理にかなった法律のもと，その場に居あわせた賢明な裁判官により，二人の僧は有罪を宣告されました。虚偽の下に隠れ，知らぬままになされた卑劣な行為は明らかにされ，多くの人々は二人の僧を呪いました。1037僧達が死ぬと，人々は忌わしいの行為あった寺院を清めようと思い，人々が拝みに来ていたアイリスの像を運び出すと，遠くティバル川へ投げました。このようにして，彼らはかって忌わしい罪が行なわれた寺院を清めました。1047僧達についての裁きは今まで述べてきたようなことですが，公爵については別の方法がとられました。彼は恋に惑わされていましたので，判決はそれほど厳しいものではありませんでした。といいますのは，恋は理性をなくし，正しい道を見ることができないからです。1053そのため公爵は命を救われ，死を許されました，彼は騙して愛を得ようとしましたので，国から追放され，二度と戻れませんでした。真実に対して誠実でない人は，復讐から逃れることはできません。

1060虚偽は他のことにもみられるということを覚えておき，耳にすることを軽々しく信じるべきではありません。そのような風が吹きますと，賢明な人なら舟の舵を正しくとるべきです。といいますのは，その風は最初は弱いですが，遂にはほど良い風ではなくなり，帆柱や網を砕き，突然激しい風に変わり，思わず船は転覆します。今日このことが本当であることを何度も経験する人がいるでしょう。私は昔起ったできごとを知っていますが，それを手とし，不幸が起る前に虚偽について注意するようにしなさい。

トロイの馬

1077虚偽を行う人について言えば，トロイにおいても虚偽がこの町の人々を騙しました。ギリシャ人はあらゆる手段を試みました。戦い，攻撃を加えても，力によってトロイの町を滅すことができないのを知った時，カルカスとクリスの企てにより，素朴な心を装った虚偽がトロイを滅しました。1087ギリシャ人は真鍮の馬を作らせましたが，それは世界の人々が作ろうとしたこともない，工夫されたものでした。1090巧みな職人のエピウスが作りました。話を進めますと，トロイの王を騙そうと思ったギリシャ人は，トロイの町とその議会の中では最も賢明で，豊かで，力のあるアンテノールとイニアスと秘密の場所で出会い，甘い約束を交し，すばらしい贈物によって彼ら二人を騙しました。彼ら双方が意見の一致をみた時，ギリシャ人は平和を装っていましたが，心の中ではトロイの王を殺し，町の破壊を目論んでおりました。1107このように平和がギリシャ人と取り決められ，始まりました。ギリシャ人は武力が役に立たないのを知ると，虚偽による方法を見つけたのです。彼らは平和を装い，その場の状況を大いに利用しました。(4)ギリシャ人は双方が一致したことをたいへんな喜びであると語りました。彼らは平和の記念となるものについて王に親しく語りかけ

ました。そして，王から感謝を得ようとして，平和を守る気持を示すために，トロイを去る前に捧げ物をミネルバの神に供えたいと王に願いました。1123王はアンテクールとイニアスとに相談し，同意しました。このようにギリシャ人は捧げ物を供えるという虚偽によって，自分達の本心を覆い隠しました。

1129ギリシャ人は純心であるように装い，一心に真鍮の馬の用意をしました。それは見た目に不思議なものでした。といいますのは，それには入口があり，十二の小さな車輪がついていました。多くの人々が町に向って上手に引いていますと，それは太陽の光を受けて輝いていました。1138トロイの町には喜びの声が起りました。町の人々はこの立派な捧げ物に親しみを感じ，たいそう誇りを感じて列をなしてその馬の方へ行きました。そして，その馬を門まで運びました。彼らはそれを町へ入れようとしましたが，門はたいそう狭く，そのため相談がなされ，結局，彼らが仕えるミネルバの神のために，そして，自分達の喜びである平和という良き目的のためにその馬が作られたと思い，ネプチューンが千年前に作った門を粉々に破壊しました。1155彼らは頑丈な城壁を倒し，その馬は町の大通りを厳かに引かれ，敬意が払われ，運ばれました。それはトロイの人々にとって永遠の愛と平和の証拠でした。1162ギリシャ人は一人残らず去り，船に乗り込み，帆を張ると，まるで出帆するかのように準備をしました。しかし月や星の光のみられない真暗な冬の夜で，海岸は真暗でした。ギリシャ人は武器を持ち，海から陸へ向いました。1172計画どうりに，トロイの町で間諜となっていたシノンは時が来たので，合い図の火を焚きました。ギリシャ人はその合い図を見て，歩を進め，思い通りに町へ入って行きました。町の門はすっかり破壊されていたからです。1178目的が達せられました。語り継れていますように，トロイの町はすっかり眠っていましたので，気づく者は誰もいませんでした。ギリシャ人は町の者をすべて殺し，多くの物のなかから自分達の望む物を手にし，他の物を焼きました。1184このようにして，虚偽の下に隠されていたのですが，欺くという行為があったのです。平和を求めていた人々は，すべてを確壊させる剣から逃れることができませんでした。

1190お菓子は味うと酸いことがよくあります。裏切るような人と関りをもつ人は，言葉の裏にある真意を見抜けないでいます。[5]そのような人は得たいと思っている時に，それを失う運命にあります。1196そのような女性は，ある男性がたいそう誠実であるようにみえるので自分の耳にしたことばにより，彼を選びますが，やがて騙されます。1200しかしよくみられ，また残念なことですが，愛に対してまったく誠意がみられず，毎日新しい恋人を得る人がいますが，結局そのような人によって愛されていた者はその後憎しみを抱き，愛が怒りの原因となります。1205しかし愛の快楽を望み，虚偽を語り騙そうとする人は，よくみられますように，必ず罰を受けます。

1210子よ，ですから私はあなたに言いますが，心にもないことを口にして女性を信じさせ，騙さないようにしなさい。男らしく，虚偽を避けるように注意するのは当然のことです。

愛における虚偽というのは，恋人が騙されるという裏切り行為のことです。虚偽の外を覆うものは楽しそうにみえるものなので，愛を求めている人はそれに気がつきにくいのです。
1222
子よ，ですから私は敢えて言いますが，女性を騙すという悪事を犯さないようにしなさい。そのような悪に関らないように注意しなさい。

ガウワー
1226
司祭様，私は関らないようにします。

聴罪司祭
1227
子よ，あなたの誓ったことを守りなさい。今まであなたに話してきたことは，傲慢の最初にみられるものです。次に，傲慢について告白し，語るべきものとして，不服従という第二のものがあります。
1235
不服従というこの悪は良心に逆い，そして素直であることを許しません。この悪は神の命じる律法に従い，神に服従することをしません。1240傲慢で手に負えないこの悪は人間のようではなく，気ままに快楽を求める獣のように動きまわります。そして，あらゆる規則を無視します。そのような人は友情とは何かを知らず，傲慢のために他人に仕えようとしません。人々が語っていますように，彼はあらゆる面で悪人であり，打ち負かされるまで，服従しようとはしません。1249愛がそのような人を屈服させることができるかどうか私にはわかりません。彼の心を素直にさせるために何が役に立つのか私にはわかりません。
1252
ですから，子よ，もし，あなたがそのような状態にあるなら，それを隠さないで，語りなさい。といいますのは，もしあなたが愛に従わないなら，どれほどの幸運がつかめるのか私にはわからないからです。

ガウワー
1258
司祭さま，飼主が「横になりなさい。」と言えば，横になるほど訓練を受けた犬が，その主人に仕えていないのと同じように，私は思いを寄せる女性の気持がわかっていても，彼女に従わないでいると申します。1261私は時々彼女の行為にひどく不平を言っています。このことについて本当のことを申しましょう。私は彼女のことばに従おうと思ったのですが，そうはできなかった二つのことを思い起すことができます。しかし私はこの二つのことを除いては彼女に従うことを敢えて約束いたします。

聴罪司祭
1272
その二つのこととは何ですか。語ってみなさい。

ガウワー

1274 司祭さま，その一つは次のようなことです。彼女は私に口を閉じておくように命じます。彼女は，私がたびたび口にする愛のことばを語らないで，だまっており，彼女の心を安らかにするよう命じています。1280 しかし私には彼女のそのことばには従うことができません。私が彼女の側にいる時，彼女は私が話すのを許そうとはしませんが，彼女の意志に逆ってまで彼女の愛を得ようとします。私は彼女に語りかけたり，行為に移したりしますけれども，彼女の愛を得ることはできません。私はたびたび彼女に語りますので，彼女は怒り，「黙っていて下さい。」と言います。1290 もし私がその命令に従い，従順であるなら，自分の思いを実現さすことはできません。といいますのは，無口でいる人はうまくことを運ぶことができないからです。1294 私はどうすればよいのかわかりません。私は自分の思っていることを口にすべきでないということばには従うことができません。といいますのは，私の彼女への思いはいつも変ることがないからです。ですから私は彼女に語りかけますし，従順であることはできません。私は何度も沈黙を破っております。これが私が彼女の命令を聞いていない第一のことです。しかしこれは傲慢からくるのではありません。

1306 私が従っていないもう一つのことがらを述べます。それは私には悲しいことであり，また自分でもわからないことなのです。彼女は私に，彼女の許から去り，新しい恋人を探すように何度も命じ，そして，もし私が彼女の愛を受けるにはほど遠い距離にあるのがわかれば，私はよそで新たに恋人を探すようになるとも言います。1315 私はこのようなことばには従おうとは思いません。といいますのは，私には新しい恋人を探すというようなことを考えることは，まるで「月を取りに行きなさい。」と彼女に言われるようなことだからです。根をはった木はしっかりとその場に立っています。私はそのように，彼女への愛によって生き，たとえ望んだとしても，他の女性に心を移すことはできません。1324 誰一人知らないことですが，かりに私が今後彼女に会うことがなくても，彼女への愛は私の胸から去ることはありません。1328 これはすばらしい節操です。彼女の気持がどうあろうとも，私の心は常に彼女に捕えられており，他の女性を選ぶことはできません。私は彼女の心を得ることができても，できなくても，私は死ぬまで彼女を愛するにちがいありません。このように私は，他のことは別ですが，彼女の命令や指図には従っていません。1337 ですから，司祭さま，愛についての教えをはっきりと説明して頂きたく，お願いいたします。そうして頂ければ，私は愛について世のならわしに従うことができるのです。

聴罪司祭

1343 私達が今語っている不服従という罪について，二つのものがそれに付いています。それらは，不平とうらみであります。楽しげな顔にするために，誰も自分の顔に色を彩るような人はいません。たとえ運命の女神が不平やうらみを満足させたとしても，それらは再び生じ，そして，もし満足させなければそれらをなだめる方法はありません。1352 不平やうらみ

はいつも人々を不幸にさせます。裕福も貧困もそれらをなくし，服従をもたらすことはありません。それらはたびたび不運な人はもちろんのこと，幸運な人をも軽蔑します。不平やうらみは盲目である傲慢のために，理性をもっていないかのようです。

1360 同じように，愛について自分の求めるものをすっかり手にしており，そして愛に従うべき時にも忠実に従わないで，不平をこぼす恋人達がいます。そのような人は自分の望んでいるものが手に入らないなら，すぐに嘆き悲しみ，自分の不運について不平を言い，呪い，泣き叫びます。彼らは事情が良くなるまで耐えることができないからです。1372 ですから，子よ，もしあなたがこのような振舞をするような人であるなら，告白して，卒直に事情を語りなさい。

ガウワー

1376 司祭さま，愛についての不平やうらみに関してあなたの言われたことを告白します。私にはうまくことが運ぶとは思えませんので，実際，私は常に自分の運命をうらんでいます。たびたびあることですが，私は思いを寄せている女性の不機嫌な顔を見，怒りを含んだような声を耳にしますと，私はすぐに不満をおぼえます。しかし私は，たとえ私の心が苦しんでいようとも，彼女を不愉快にさせるようなことを敢えて口にしようとは思いません。誰も知らないことですが，私は心の中では不満でいっぱいなのですが，それは口に出すことはしないでいます。私はその不満を外には出しませんけれども，私の心は彼女に従わないでいようという気持でいっぱいです。このように私はあなたが不服従とおっしゃることについて告白します。あなたの忠告をおっしゃって下さい。　　（巻一続く）

註

(1) 299行目では節を変えないで，聴罪司祭のことばになっている。
(2) 地中海のことか。
(3) 原文では hypocrisy である。
(4) この個所は，原文では
And of an ynche a large spanne Be colour of the pees thei made,
とあるように，「小さなものを大きくした」となっている。
(5) この個所は，He spilleth many a word in wast である。
(6) gentian—リンドウ属の植物，この根から健胃剤を採る。